



生命共済Q&A

Q：「掛け捨て」それとも「積み立て」？



生命保険には「掛け捨て型」と「積み立て型」があり、どっちがお得か？という議論をよく聞きます。多くの保険がある中で、どれが自分に合っているか判断するのはなかなか難しく、それぞれにメリット、デメリットがあります。また加入時の状況や目的で選ぶポイントが変わってきます。

	掛け捨て	積み立て
メリット	保険料の負担が軽い。 保険の見直しがしやすい。 商品数が多く、保障のバリエーションが豊富。	貯蓄として活用できる。 保険料を無駄に感じにくい。 緊急時に貸付等の制度がある場合も。
デメリット	解約返金がない。 保障は一定期間。 年齢区分で更新時に保険料が上がる。	保険料の負担が大きい。 中途解約するとマイナスになる。

一概に“どちらが正解！”とは言えませんし、「損得」を考えて加入することもあまり賢明な選択ではないと思います。保険料を低く抑えたい場合には「掛け捨て型」、将来の資金準備も必要という方は「積み立て型」を選択することになるかと思います。

Q：「生活を守る」なら掛け捨てが良い。

「何もないと損する」と感じる方にとって「掛け捨て型」は敬遠されがちですが、「**光熱費と同じ様なもの。生活のための必要経費**と考えればいい。」という方もおられます。



「生命保険」ですから「万が一の際の保障を最優先」で考えなくてはなりません。例えば、まだ年齢も若く、お子様も小さいご家庭で、「家計に余裕はないが保障をしっかりともちたい」といったケースであれば、「保障重視」の「掛け捨て型」の生命保険になるでしょう。また、一定期間だけ保障を大きく持っておきたい方も「掛け捨て型」を選ぶのがベストと思われます。

表のように、両方取り扱っているA生命の例を見ますと、積み立て型の保険料は**掛け捨ての型の約9倍**にもなります。この金額を毎月支払い続けるのはけっこう大変です。働き盛りの間に1,000万円の保障を備えるという点においては、掛け捨て型の生命保険の方が割安です。

A生命の例	35歳男性	保険金額1000万円の場合		
掛け捨て	月額3,040円	積み立て	月額26,760円	

Q:「掛け捨て型」の注意点は？

期間が限られており、更新時や年齢と共に保険料が高くなるのが一般的です。(ただし、保障金額を下げたり、保険期間を長くしたりすることで保険料を抑えることはできます。)「何歳までいくらの保障が必要なのか。」ということについては、じっくりと検討する必要があると言えるでしょう。

Q:「共済」と「保険」って違うの？

「万が一の時のために」という趣旨は同じですが、保険は「保険会社から商品を買う。」ということに対し、**共済は「お金を出し合って助け合う。」**という違いがあります。

また、月々の支払いを保険の場合は「保険料」、共済の場合は「掛け金」と呼んでいます。



先ほど「何もなければ損」という話が出ましたが、共済の場合は「自分は何もなかったけれど、どこかの仲間を助けている。」ということになります。そう考えると、決して損をしてはいないのではありませんでしょうか。特に「全教共済」の場合は、教職員とその家族に限定された共済ですので、助け合いの精神がより深く感じられるのではないかと思います。

Q:「共済」の掛け金って安いなの？

一般の生保に比べ、はるかに安くなっています。実際に、TVでよく見るネット型の生命保険の見積もりを取ってみました。(死亡保障 男性 500万保障の場合の月額)

年齢区分	全教共済	B生命	C生命	D生命
31歳~40歳	450円	682円	640円	650円
41歳~50歳	1200円	1162円	1130円	1150円
51歳~60歳	1275円	2411円	2275円	2665円
61歳~65歳	3075円	5423円	4975円	5690円
66歳~70歳	3850円			



* B~D社は10年定期の場合。

* 全教共済の年齢区分は66歳~80歳となります。



41歳から50歳がやや高めだけど、40歳以下や51歳以上は断然お安い。長い目で見たら**全教共済がお得です**。さらに「全教共済」は、加入口数をご自分で選んだり、更新時に変更したりすることができるので、ライフスタイルに合わせた保障を設定することができます。

【加入限度口数】 60歳まで 20口（一般死亡：1口100万円）
 ＊配偶者は15口、お子さんは10口まで
 ＊お子さんの加入年齢は29歳まで

61歳～65歳 10口まで

66歳～80歳 継続：5口まで（新規加入は65歳までです）
 新規加入及び増口は65歳まで。

【共済金】



種 類	一口あたり	
	70歳以下	71歳以上
一般死亡	100万円	60万円
公務災害・交通事故死亡	150万円	90万円
後遺障害（1～14級）	最高50万円	最高30万円

全教共済では、生命共済の制度改定について話し合っています。

全教共済では加入者のためによりよい制度にしたり、財政の収支バランスを見直したりするために、数年ごとに制度改正を行っています。今回は「定年延長」という働き方の変化があったため、年齢区分の見直し等について議論されています。



年齢区分とともに、若い人達の加入を増やすために、40歳以下の掛け金を更に安くできないか。死亡保障を30口まで増口できないか。また、71歳以降も共済金の給付額を同じにできないか等を本部と全国の共済会の役員や職員が集まって話し合っているんだよ。

『生命共済』（医療共済・傷害共済も）加入の方とご家族の方は

『メディカルコール』 & 『こころのカウンセリング』がご利用いただけます

①緊急医療・一般健康相談 ②医療機関案内 ③育児・栄養相談 ④お薬相談 ⑤専門医相談・がん専門医相談（予約制） 24時間365日サポート

＊詳しくは青教共済まで